

千葉市立青葉病院 診療科別臨床研修プログラム 泌尿器科

I. 研修プログラムの目的および特徴

泌尿器科研修の目的は、単に知識や技術を習得するのではなく、尿路・男性生殖器疾患の特殊性を踏まえた診断・治療についての考え方や自己学習能力を高めることである。当院における泌尿器科研修は、選択科目として1ヶ月間以上の研修を原則として、細部にとらわれずに、他科領域と整合性のある研修プログラムを設定した。泌尿器科を受診する患者さんは高齢者が多いことより複数の他疾患を有することが多い。また現在の高度に複雑化した泌尿器科診療体系は必然的にチーム医療の実践を求めている。したがって全人的な診療や、スタッフとの円滑なコミュニケーションを行なう態度を身に付けることは泌尿器科研修の重要な目的であり、同時に特徴である。

II. 研修指導医

研修責任者	石原 正治	泌尿器科統括部長	尿路結石・前立腺疾患
指導医	岡野 達弥	副院長	泌尿器腫瘍外科・癌化学療法・HoLEP
指導医	松本 精宏	泌尿器科部長	尿路結石・泌尿器腫瘍外科
指導医	高橋 正行	主任医長	尿路結石・泌尿器腫瘍外科

III. 研修内容と到達目標

1. 一般目標

尿路・生殖器の病態生理と特殊性を理解し、科学的根拠にもとづいた医療を実践するとともに幅広い人間形成を行い、チーム医療に参加する態度を身に付ける。

2. 行動目標

- (1) 外来診察の問診を行なうことができる。
- (2) 腹部、男性生殖器の診察、前立腺の触診を行なうことができる。
- (3) 神経学的診察を行なうことができる。
- (4) 必要な検査を選択することができる。
- (5) 異常所見を具体的に述べることができる。
- (6) 診察所見を総合して、正しい診断にいたることができる。
- (7) 治療計画を具体的に述べることができる。
- (8) 患者さんや家族の心情に配慮することができる。
- (9) 守秘義務を理解し、これに即した行動がとれる。
- (10) 治療計画を具体的に述べることができる。
- (11) 治療の手順を理解し、準備をすることができる。
- (12) 注射、採血、小手術を行なうことができる。
- (13) スタッフと良好なコミュニケーションを図ることができる。

- (14) 保健診療体制を理解し、これに即した診療ができる。
- (15) 院内感染を理解し、清潔な行為を行なうことができる。
- (16) 社会人としての節度ある服装や、行動をとることができる。

経験すべき診察法・検査・手技

(1) 研修すべき基本的な診察法

- ① 外来患者の問診を行う
- ② 腹部の診察を行う
- ③ 神経学的診察を行う
- ④ 男性外性器の診察、前立腺の触診を行う
- ⑤ 必要な検査を選択する

(2) 検査を指示し、結果を解釈できる基本的な臨床検査

- ① 一般検尿
- ② 尿細胞診検査
- ③ 尿細菌学的検査
- ④ 尿道・前立腺分泌物顕微鏡検査
- ⑤ 一般血液検査
- ⑥ 腎・前立腺・精巣癌マーカー
- ⑦ 核医学的検査（レノグラム、骨スキャン）
- ⑧ 経静脈的腎盂造影・膀胱尿道造影
- ⑨ 泌尿生殖器期画像診断（CT、MRI）

(3) 基本的手技

- ① 膀胱機能検査
- ② 失禁テスト
- ③ 尿流量測定
- ④ 残尿測定
- ⑤ 腹部超音波検査
- ⑥ 膀胱尿道鏡検査
- ⑦ 逆行性尿管カテーテル挿入
- ⑧ 導尿法
- ⑨ 体外留置カテーテル交換
- ⑩ 腎盂・膀胱洗浄

(4) 基本的治療法

- ① 薬物療法
 - 1. 尿路感染症
 - 2. 排尿障害
 - 3. 尿路性器腫瘍（抗がん剤の効果、薬物有害事象の定量的評価）
- ② 自己導尿指導

- ③ 排尿訓練の指導
- ④ 泌尿器科の手術手技
 - 1. 助手として参加する手術
 - (ア) 観血的手術（腎摘出術、膀胱全摘術、前立腺全摘術等）
 - (イ) 内視鏡的手術（endourology）
 - 2. 執刀医としての手術
 - (ア) 膿瘍切開術
 - (イ) 体外衝撃波結石破碎術（ESWL）
 - (ウ) 前立腺生検
 - (エ) 精巣摘除術
 - (オ) 皮膚・筋膜縫合術
- ⑤ 医療記録
 - 1. 所見、応答、診療行為を POS に則って記載することができる。
 - 2. 検査データを整理することができる。
 - 3. 適切な紹介状を書くことができる。
 - 4. 診断書、死亡診断書を書くことができる。

経験すべき症状・病態・疾患

- (1) 症状
 - ① 尿閉
 - ② 結石疝痛発作
 - ③ 血尿
 - ④ 膿尿
 - ⑤ 排尿痛
 - ⑥ 頻尿
 - ⑦ 尿失禁
- (2) 疾患・病態
 - ⑧ 前立腺肥大症・前立腺癌
 - ⑨ 腎後性腎不全
 - ⑩ 腎・尿管結石
 - ⑪ 腎盂腎炎・前立腺炎、精巣上体炎
 - ⑫ 尿道炎
 - ⑬ 尿路性器腫瘍
 - ⑭ 尿路性器外傷
 - ⑮ 尿路性器奇形
 - ⑯ 男性性機能障害
 - ⑰ 副腎腫瘍

特定の医療現場の経験

- (1) 救急医療
- (2) 緩和・終末期医療

- ① 末期癌の患者さん・家族の心情に配慮し、全人的に対応することで、適切な緩和医療を行なうことができる。

IV. 評価法

1. 泌尿器科研修プログラム終了時に、各指導医の総意に基づき指導責任者により総合評価が行われる。
2. 指導医により、各到達目標に対する評価が行われる。
3. 研修医は、各到達目標に対する自己評価表を提出する。